

第2回「山から街まで緑豊かな愛知の実現～全国植樹祭を契機に～ 一健全で活力のある「森林づくり」を進めよう！～（平成30年10月5日開催）」の主な御提言に対する県の対応

主な御提言（要旨）	県の対応
<p>【全国植樹祭後の取組】</p> <p>全国植樹祭が一過性の行事で終わるのではなく、そこから木を使い、森を育てる文化を愛知県の中で広げてもらいたい。</p> <p>中学生が野外活動の「もりの環(わ)」活動で間伐した木材を、来年の全国植樹祭で何らかの形で利用し、植樹祭終了後は尾張旭市等の公共施設などで再利用できないか。</p> <p>これからは22世紀型産業になり得る森林資源産業の担い手の育成が必要ではないか。全国植樹祭をきっかけに、森をつくることは魅力的だと伝えるような仕組みができるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第70回全国植樹祭の関連事業として、平成29年5月より県内全54市町村を巡回し、県民の皆さんから未来の木づかいや森林への想いを集める「あいち言(こと)の葉(は)キャラバン」やワークショップを展開し、将来にわたって、健全な森づくりや木材利用に向けた機運の醸成を図っています。 ・「食と緑の基本計画2020」に基づき、全国植樹祭の開催後も引き続き森づくりと木材利用を推進する取組を進めていきます。 ・「もりの環(わ)」活動で間伐した木材を利用した木製遊具を、第70回全国植樹祭の会場において設置し、全国植樹祭終了後の再利用については、尾張旭市内での活用に向けて関係者と調整していきます。 ・県の林業普及指導員が、小中学校の生徒を対象とする間伐作業体験・木工体験等の実施や、林業関係高校生を対象とする高性能林業機械の操作体験の実施などを通じて、将来を担う人材の確保・育成に取り組んでいます。 ・第70回全国植樹祭の開催後も、木を身近に感じるイベント等の機会を提供していきます。
<p>【あいち森と緑づくり事業】</p> <p>継続される方向の「あいち森と緑づくり事業」で、台風等の風倒木から電線などのインフラを守るため、道沿いの森林整備等を行ってほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち森と緑づくり事業」では、人工林整備事業として、林業活動では整備が困難な人工林の整備を進めています。引き続き人工林の整備を進め、中でも防災効果の高い公道沿い、集落周辺、河川沿いの間伐を重点的に実施していきます。
<p>【森林資源の有効活用等】</p> <p>大口町の北保育園のような大型の木造公共建築物を、もっとたくさん造ることはできないか。そして、この広がりにより、子どもたちに小さな時から木の良さを知ってほしい。</p> <p>愛知県は多くの森があり、とても質の良い木材が採れるエリアなので、この資源を宝物として産業とつないでいけるような施策を行政サイドに進めてほしい。</p> <p>中高層建築物を、木材だけの構造で造ろうとせず、まずは鉄骨(S)造や鉄筋コンクリート(RC)造とうまく組み合わせる混構造でスタートしてみるなど、今までとは違った観点で造ってみてはどうか。</p> <p>日本は森と人口と技術を全て持っている。愛知県がフィンランド・ヘルシンキ市のような中高層建築物の「木造特区」の日本版先進モデルとなって、森づくりと街づくりを循環させられないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共建築物の木造・木質化を進めるため、各種補助事業により支援しています。 ・県産木材の利用を促すため、「あいち木づかい表彰」により、木の良さを実感できPR効果の高い建築物や製品を表彰し、木の魅力や優れた使い方の普及を図るとともに、建築士等を対象として研修会を開催しています。 ・また、「あいち森と緑づくり事業」において、公立小中学校の児童生徒用の木製机・椅子等の導入を支援し、木の良さやあたたかさに触れる機会を提供してきました。平成31年度からは、第70回全国植樹祭の開催理念を継承し、新たにPR効果の高い建築物等への県産木材の利用を支援していきます。 ・「あいち木づかいプラン」に基づき、木材用途の拡大、木材利用の普及啓発及び新たな技術開発など木材利用の促進に努めています。 ・充実した森林資源を活用して「伐る・使う→植える→育てる」を行う循環型林業や、間伐材の搬出を進めることで、木材生産量の増加に取り組んでいます。 ・最近の先進事例として、中高層建築物の木造化が見られるようになり、木質耐火部材等の開発の取組も進んできていることから、専門家等に対する研修会等を通じて情報提供しています。 ・県では、新しい建築材料であるCLT(直交集成材)を活用した森林公園案内所が平成31年2月に竣工し、このような先進的な木材利用技術の導入を進めています。 ・中高層の県有施設的设计にあたっては、木材利用を進めていくという観点からも、引き続き様々な工法について広く情報を提供していきます。 ・都市部における木材利用を進めるため、フォーラムやセミナーを開催するなどの普及啓発を行い、「都市の木質化」を推進しています。 ・併せて、海外の事例や先進事例について情報収集を行い、今後の取組の参考としていきます。

主な御提言（要旨）	県の対応
<p>【林業の雇用対策】</p> <p>林業の現場を切り盛りしていく技術者を増やし、雇用も含めて取り組んでいく必要があるのではないかと。</p> <p>若年林業従事者からは、林業だけではなかなか生業として生計が立てられないとの声が多いので、対策が必要ではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就業者については、「食と緑の基本計画2020」において平成28～32年度までの5年間で200人確保することを目標に定め、就業相談や技術者養成研修等の取組を進めています。 ・平成31年度から新たに始まる森林環境譲与税を活用し、担い手の確保・育成、林業事業体の育成等に努めていきます。 ・高性能林業機械の導入への支援を行うことで、木材の生産性を向上させ、林業全体の収益性を高める取組を進めています。 ・ICTを活用したスマート林業の推進により、さらなる森林施業の集約化や木材の生産性向上に取り組んでいきます。
<p>【森林の活用】</p> <p>木材を使う側の一般市民と森との距離が離れすぎていると感じる。もっと森林の状況を伝えたり、街の人を森に連れていく活動を増やしたりする必要があるのではないかと。</p> <p>トレイルランニングや新城ラリーのようなイベントを通して、林業・木材生産以外の、森の空間の効果的利用・森の多面的な活用方法を考える必要があるのではないかと。</p> <p>森林の情報の整備が遅れているので、木材資源や森林空間を効果的に利用していくため、愛知県の森林状況の情報を集約する中核的なセンターを造ってほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち森と緑づくり事業」では、森林や都市緑化並びに環境学習の現状と課題などを県民の皆様にご覧いただくために、体感ツアーや事業のPRイベントを実施しています。 ・また、県の林業普及指導員が、地域のイベントにおいて森林・林業教室を開催し、間伐作業体験や木工体験を実施するとともに、小中学校を訪問して出前講座を開催し、自然観察や間伐作業体験等を実施しており、引き続き各種普及啓発等に努めていきます。 ・森林公園や県民の森、緑化センター等において、一般県民の方々が森林や緑に触れ合う機会を提供するための各種イベントや講座を実施しており、森林を林業・木材生産以外のレクリエーションや保健休養の場として活用しています。 ・東三河振興ビジョンにおいて、自然環境を活かした森林観光、グリーンツーリズム等を推進しており、森林資源を活かした体験型観光を地域において展開しています。 ・県では、森林情報管理システム(森林GIS)により、森林の樹種や林齢などの森林情報を集約・管理しており、森林所有者等の森林管理のために提供しています。 ・航空レーザ計測等により得られる詳細な森林情報についても提供できるよう整備してまいります。